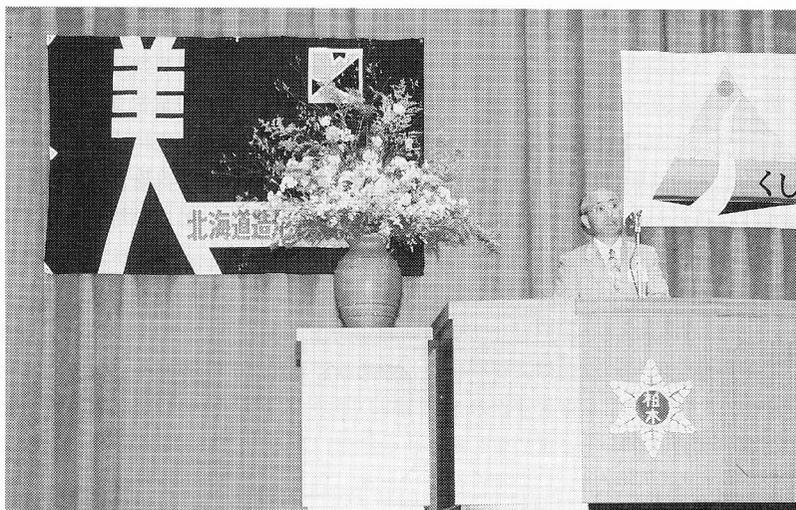
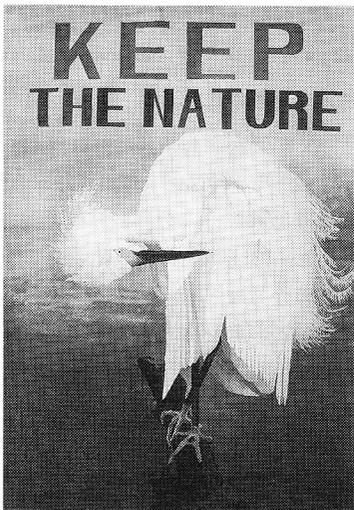


# 心ときめく 創造の喜びを求めて

第44回 全道造形教育研究大会釧路大会 **大会特集**



## 北海道 造形教育 連盟報

No. 99 1994.12.20 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒065 札幌市南区真駒内泉町3丁目

札幌市立真駒内南小学校 白井 圀 毅

☎011-581-0221

## 新しい造形の道をもとめて



釧路大会運営委員会

### 《はじめに》

霧の都、釧路にとっては、めずらしく晴天に恵まれ全道造形教育研究大会を祝うように二日間、晴れわたって快適に過ごすことができました。

全道各地から多数の参加者を得て授業に提言にと熱心なる討議がなされ、もう少し分科会の時間が欲しいという司会者の話を聞き授業者・提言者、参加者に心から感謝申し上げる次第であります。

第43回の旭川大会の成果から学び、釧路の地域を生かし子どもの良さや可能性を秘めた教師の支援のあり方を追求してきました。

ささやかで拙い実践でしたが、明日の時代をきり拓く子どもの創造活動を考える授業・実践に少しでも参考になれば幸いです。

前回の第31回釧路大会より13年振りの大会であったため、人的な面、運営面でも不慣れなため、ご迷惑をかけたことがあったと思われませんが、釧路大会運営委員が一丸となり取り組んだ大会ということでお許しいただきたいと存じます。

また、今回の大会に向けてご支援・ご協力頂きました造形運盟本部の役員の方々、各支部の方々、各地の先生方に感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

### 心ときめく、 創造する喜びのある授業をもとめ

分科会1は、授業を中心とした部会でした。

私たちは、子どもたちが自らの思いを大切に主体的な表現活動をするための授業を構築することを求めてきました。それは、共感的理解をもって支援を工夫することで可能という仮説に立っています。



### 《分科会1》

一人一人がよさや可能性を発揮するために教師の支援のあり方をどうすればよいのか。

- ◎子どもが自ら主体的な表現活動をするための授業構築のあり方は……
- ◎新しい学力観に基づいた評価のあり方は……
- ◎意欲につながる教材開発および教材化は……

子ども達の学習意欲を喚起させ、主体的な学習過程を構成するための手だては何か。その中でどう一人一人の造形能力を高めていくかが話し合われました。

また、支援のあり方として教師の言葉かけで子どもの学習意欲を喚起させることができること。

更に高学年になると苦手意識が子どもにでてくるがそれを取り除くための手だてや個々の思いを大切にし自分なりの描き方をどう工夫するのか。

イメージを持ち見通しを持ち主体的に取り組むための造形活動お促す支援のあり方などを話し合った。

中学生では、個性的な造形作品を生み出すための手だてや子どもたちに育てたい能力を明らかにして計画を立てるようにしている。



## 授業者の声

- 子どもたちに対してイメージと見通しをもたせ主体的に学習することを重視して取り組んできたが、その支援のあり方を究明したい。
- 中学生では、造形活動を推進するための基礎として観察力やデッサンカが必要となり、子どもの能力をどう育てるかを考慮して授業に臨んでいる。

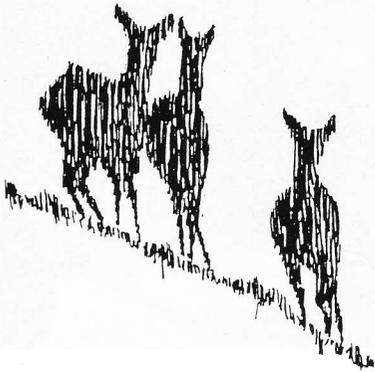


## 白熱した分科会 2

分科会2は、全道各地の先生方の提言について話し合われた部会でした。今回の大会では、分科会の校種として「障害児」を位置付けました。

造形活動の望ましいあり方を追究する場合、幼・小・中・高のみならず、「障害児」を取り入れた中での教育が必要になってくるのではないのでしょうか。

幼稚園児の絵は心で描くが、日常の表現活動での教師の役割はどうあるべきか。



小学生低学年の造形あそびでは、それぞれの思いや意欲が原点となり束縛されることのない自由な遊びの中で発展していくようである。

子どもが本来もっている造形活動をいかにのびたらしよいかを考えることが大切であり、表現の喜びを味わわせ子どものよさをみとる評価のあり方を究明することが、新しい学力観に立つ指導では必要である。

中学生の発達段階に応じた造形活動や生徒の美的感動を引き出す支援のあり方・評価のあり方は何かを究明した。

高等学校部会では、生徒一人一人の個性を尊重することで、生徒の秘められた内心に迫る自己表現のための授業のあり方についての検討がなされた。

障害児の部会では、表現意欲を高めるための豊かな経験・体験に結びつく題材設定はどうあるべきか。表現意欲を高めるために教師の共感的態度はどうあるべきかについて話し合われた。

## 《全道造形教育ネットワーク部会》

- 各支部における研究の取り組みと実状。
- ネットワーク部会のこれからの取り組み。
- 次回第45回石狩大会（千歳市）に向けての確認。

## 《終わりに》

今大会では、分科会を授業（分科会1）と提言（分科会2）に分けたこと更に全道造形教育ネットワークを位置付けたことが特色にあげられる。

今大会で話し合われ課題になったことが、次回の大会へ発展していくことを願っております。

更に第45回石狩大会の成功をお祈りし、千歳市で多数のみなさんと再開することを楽しみにしております。



## 学んだ釧路大会

札幌市立月寒東小学校 田口 和男

釧路・春採湖畔の柏木小学校。何とすばらしい自然環境に恵まれているのかと、うらやましく思いました。その豊かな自然に育まれた子どもたちの授業に向かう目が、生き生きしているのに驚かされました。

授業は、造形遊びを中心に見ました。幼稚園の「海の中の世界」の授業は子どもたちが実に楽しそうに全身を使い活動していました。2年生の「不思議な世界」では題材名の工夫や材料選びについて考えることができました。

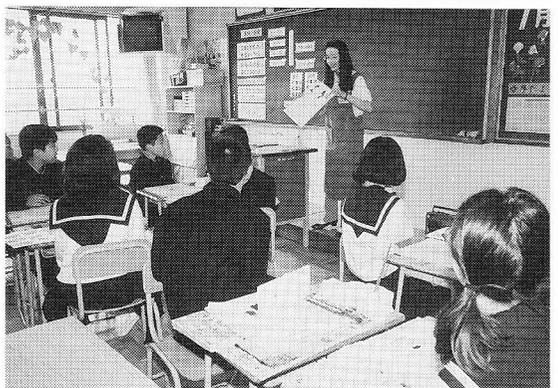
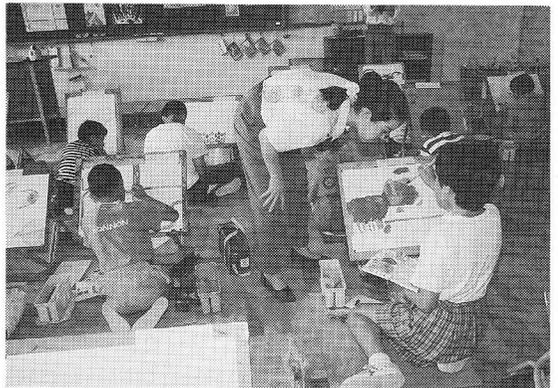
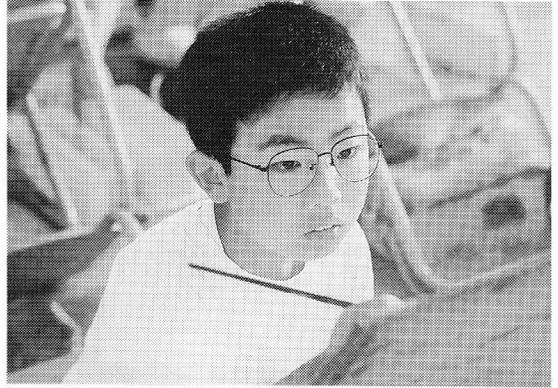
どれもが、子どもたちが主人公で遊びのまなざしでいっぱいでした。子どもが、授業中にこうしたいと思うイメージの散歩を楽しみ、活動しながら自分の作り出す世界と遊ぶことができること、また、いろいろな材料を自分の手で別なものに生かえらせ、輝きを持たず活動が造形遊びなのだと思います。

「ようこそ柏木小学校へ。ここは緑がたくさんあるし気持ちのいいところです。」とかかれた子ども手作りのカードをもらいました。その言葉のように気持ちよく学ぶことができました。

## 釧路大会『雑感』

網走郡津別町立津別中学校 西村 栄基

春採湖のほとりに恵まれた自然環境を生かした教育施設・教育環境を見学できました。例年のごとく素晴らしい児童・生徒の作品が掲示され、改めて『ああ伸び伸びと表現できる子がいるな』『上手だな』『いい取り組みをしている学校だ』などと自校の自分の反省をしながら鑑賞できました。また、本大会の授業者の中には若手の先生の積極的なアプローチが感じられ好感が持てました。しかし、美術時間数の削減や経験不足からくる「心ときめく表現活動」への難しさが提言されていました。これは、教育界そのものの世代交代や現在美術教育が投げかけられている危機でもあります。子ども達の実態に頭を悩ませながら、格闘し実践しつづける造形教育の責任は重大です。求められる人間性重視の教育に対する、効率化の問題、時間のなさからセット教材へと走る先生などいろいろな問題点を確認できました。その様な中で、「評定をしない」「新しい素材を研究する立体造形」の取り組みは従来の固執した教育観ではなく、教師自らが、変革しようとする姿勢がみられ、教育そのものを柔軟に、大きくつかもうという点が素晴らしく感じられました。私自身も活性化を図りたいと思いました。





## 第44回 釧路大会の成功を祝して

釧路市十条ひまわり幼稚園園長 田村 實

釧路のこの時季としては久々の、ぬける様な青空のもと、全道造形教育研究会「釧路大会」に参加した。主会場の釧路市立柏木小学校のグラウンドは、もうすでに満車の状態であった。

公開授業などの会場も参加者であふれ、豊かな感性を培い、柔軟な発想力や想像力鋭敏な直感力を基盤とした創造性や基礎的な造形能力を高めるにふさわしい質の高いものであった。

開会式はセレモニーもさることながら、開会式会場の設営・雰囲気も造形教育研究会にふさわしくまことにスマートな構成であった。

分科会は1・2共に、実践に根ざし、熱気にあふれ「心ときめく、創造の喜びを求めて」の研究主題に迫るものであった。

釧路大会の開催決定以来、稲船正男大会運営委員長・三枝佑嘉副運営委員長・中村紀雄事務局長を中心に、地元役員並びに会員のうって一丸となった結束力のご苦労がむくわれた大会であった。

## 釧路大会に参加して思うこと

函館市立赤川中学校 野呂 憲一

今年の釧路大会は全道的に猛暑の中、一服の涼しさといった感じのする大会であったように思えます。素朴で、手作りの大会、自然環境を生かした会場校、休憩室毎のPTAのお母さん方の接待等、例年の大会に比しても、人的交流の輪がそれぞれあったように感じました。

けれども、多少、疑問が無いわけでもありません。これは釧路大会ばかりではないのですが、どうも、イベント慣れ、疲れが見えるようです。地方の大会の特色と同時に、全道的規模の研究、交流の実が上がるような、着実で、長い期間の蓄積の成果の発表であってほしいと願っています。思えば、随分、全道大会に参加してきました。研究発表、授業者、一般参加等、肩書きはいろいろと変化しましたが、やはり、感じるのは、全道大会に対して、心のときめき、何か新しい創造の源に触れることの喜び、吸収しようとする何かがある、それを確かめたい心、それらを満足させ得る大会に期待したいと思います。

次年度の千歳大会が心のときめきを感じるものであってほしいと願い、応援したいと思います。

## ネットワーク分科会に参加して

室蘭市立中島中学校 北村 哲朗

初任者の頃、先輩から「小学校の教師は、何でも屋でなければならないところもあるが、何か一つの教科を研究していくことも大切だ。」と言われた。地道な実践を積み重ね、自分なりの考えや方法を見つけ出すことが本当の力となっていくのだということを言いたかったのだろう。

世代間の交流が薄れてきている現実、時代がマニュアル化に向かう中での実践の在り方、核になる人間の必要性等との支部も研究活動の活性化についての悩みを多く抱えている。しかし、作品を持ち寄り、熱く語り合う中から理論も実践もやはり生まれてくるのだと思う。くり返し話題になってきたものもあるだろうが、古くて新しい問題もあり、新しい地平を切り開いていく問題もあるはずである。自分の足でしっかりと立って研究実践していくことが、我々に求められているのではないだろうか。

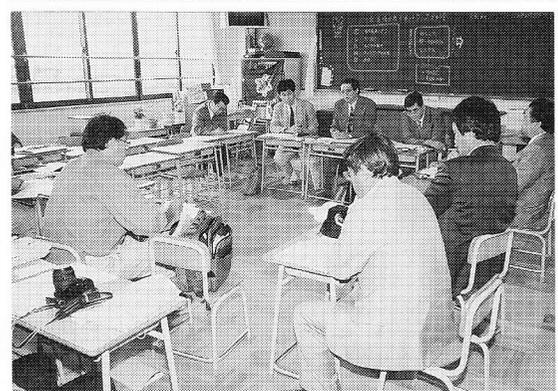
地域素材の発掘と情報交換、材料マップづくり、人材紹介と派遣、VTRを利用した交流等、一方通行でもよいから行動を起こし、ネットワーク分科会をその発信地にしようという意気込みに期待したい。

## 考えさせられた24時間

札幌市立南が丘中学校 阿部 時彦

札幌を午前2時に出て、一路東へ走る。朝もやの峠を過ぎると広大な道東の平野が広がってきた。道のりの半分を過ぎた。太平洋が見えてくる。目的地はもうすぐだ。いよいよ釧路の街の中、幣舞橋を渡り迷いながらも柏木小学校に辿り着く。8時半前の時間というのに受け付けは大勢の人ばかりで、この大会に参加し何かを得ようとする先生方の強い意気込みを感じた。

そして公開授業、柏木小学校の開放的な学校の作りと相まってとても楽しい授業が展開された。その後の分科会1、分科会2、私は中学校の彫刻と立体造形に参加したが活発な議論が交わされ、たいへん有意義のものであった。その中で特に印象に残ったのは、評価についての話し合いであった。自分でも評価について悩みが多いなかでの話し合いであったので自分の考えを整理するよい機会となった。そして「心ときめく創造の喜びを求めて」いく子供達に序列を付けなければならない現実の中でまた1年、幾つかの解答を求めて試行錯誤を繰り返していく覚悟で釧路を後にし夜道を引き返したのであった。帰着、午前2時。



# あらためて美術教育を考える



帯広市立帯広第四中学校

教諭 奥野 淳 一

「美術教育が大きな曲がり角にある」。「美術教育が危機を迎えている」。……ここ数年間の研究会・研修会に出るたびに耳にする言葉であり、「我々美術教師は、そのことを謙虚に受け止め、行動をおこさねば」……と結論づけられ、納得したかのように帰ってくる。しかし、方向性が見えてこない。……先日こんな内容のことを若い美術教師と膝を交えて話し合った。

小学校における「造形遊び」、中学校においては、2・2・1or2・1・1・1の履習、そして選択教科としての美術の問題が大きな論議を呼び、今こそ美術の大切さ重要性を訴え、実践していかねばと力んで見たものの、不思議と落ち着くところに落ち着き、何もなかったの如く、教育活動が行われている現実、いったいなんなんだろう。与えられたワクの中でどう実践していくかの研究ではあまりにも消極的であり、美術教育の本質の問題を抜きにした研究・実践は骨抜きでしかない。本当にこれでいいのだろうか？若い教師ならずとも疑問を持たざるを得ない。

今日のような受験戦争の中での「美術」はさほど重要な教科ではなく、「美術」にさく時間があつたら、国語や数学の勉強をしたほうが将来のためだと考える親が多くても不思議ではない。しかし、そういう親であっても、美しいものに感動し、美を愛することが全く必要ないなどと思っているとは考えられない。めざましい経済的発展により、物質的な豊かさに恵まれている今、美的生活が望まれていることは確かな事実である。広く現在の日本の現状を見れば、人間として心豊

かな生活を願い、子供もそうあって欲しいという気運がかかってないほど高まっている以上、美術教育が果たす役割、美術教育に求められているものは、実は、大きいはずなのである。

「美術」という教科は、学習結果が作品として残る教科であるため、とかく作品を中心に教科のあり方が論じられがちな一面をもっている。「美術」の教師としては、作品ではなく、生徒理解を重視して、「美術」の授業を通して生徒がどのように変わっていったかを的確に把握して、それを「美術教育」の前面へ出していかなければ、美術教育の意義が理解されないことを、真剣に考えていかなければならない。

「美術」は、人格形成に深くかかわっている。美術の学習を通して学んだことは、社会に出てからも、ものをよく見ることに役立ったり、発想が豊かになっていくというような全人格的な基礎の教育に深くかかわっていることは、疑いない事実なのである。

「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成をはかること」が、教育課程改善の柱の一つとなっている。まさに美術教育に関係する重要な部分である。たくましく生きることや豊かな心をもつというようなことは、ともすると他の教科で教えればよいと思われがちだが、そうではなくて、美術によってこそより身につくことなのである。あらためて美術教育とは何なのかを考え、その目的達成のために必要な条件整備を早急に行わなければならない。美術教育に真剣に取り組もうとしている若い仲間のために、そして、子供たちのために。

## 第21回 北海道教育美術展

会期 平成7年1月12日(木)～17日(火)

北海道教育美術展は、入選した子どもと父母はもちろん、多くの人々が鑑賞に訪れます。指導の参考資料にとカメラ持参で訪れる先生も年々多くなってきて、北海道の美術教育の方向を示すイベントとして定着しています。

また、新しい表現の作品の評価についても検討さ

れ、次のような基準で半立体作品も取り上げられています。

- ・積み重ねてもつぶれない、かさばらない。
- ・接着が強固ではがれない。
- ・画紙で展示が可能な重量であること。

どうぞ、作品を直に見て、ご意見をお聞かせ下さい。



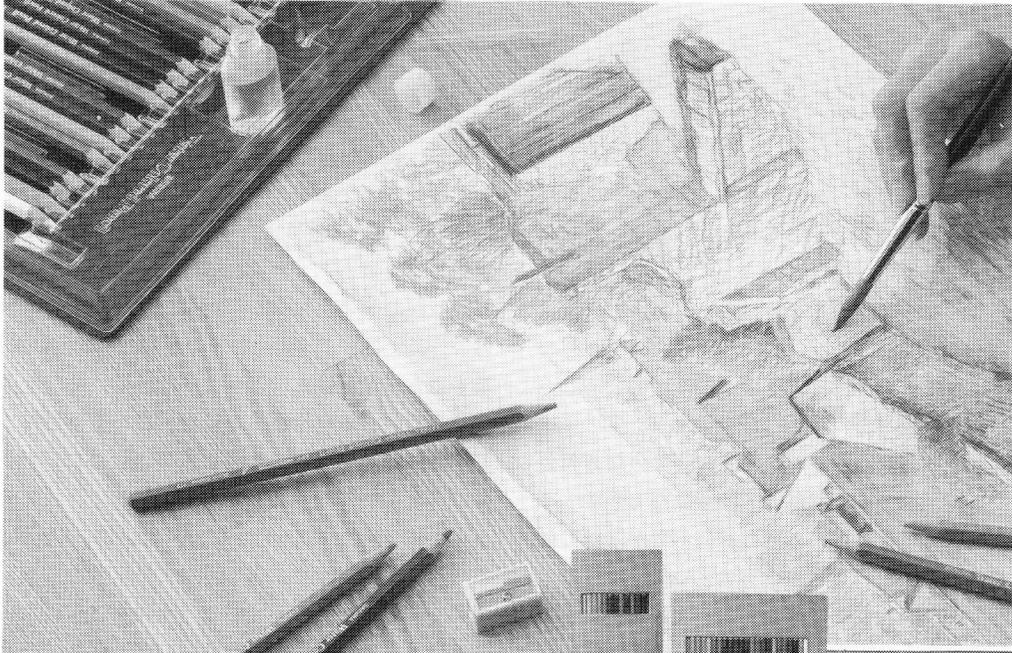
# サクラ 水彩色鉛筆

## 12色 24色 36色

### SAKURA Water Colored Pencil

筆・水入れ・削り器付

## 水で溶かせば水彩画のタッチ!



日々の暮らしの中で、ふと目にとめたワンシーン、  
だれかに伝えたい小さな感動を、手軽に多彩に表現できます。  
贈り物としても贈る人のアートな気分を伝えます。

12色

24色

36色

### 特 長

- 水で溶かせば水彩画のタッチになる色鉛筆です。  
色鉛筆の細かい描写や混色効果、水彩画の着色表現などが同時に楽しめます。
- ケースは中身がわかる窓あきのため、安心して購入できます。
- 戶外スケッチにも必要な筆・水入れ・削り器が入っているため携帯に便利です。

商 品 名	略号	品No	JANコード	小売価格	包装単位	梱入数
サクラ水彩色鉛筆12色	EPY12	811550	4901881 811555	2,000円	5コ	40コ
サクラ水彩色鉛筆24色	EPY24	811568	4901881 811562	4,000円	5コ	20コ
サクラ水彩色鉛筆36色	EPY36	811576	4901881 811579	6,000円	3コ	9コ
サクラ水彩色鉛筆単色	EPY#	—	—	各色150円	10コ	600コ

(税別)



## 株式会社 サクラクレパス

### あ と が き

難産の号もありましたが99号までたどりつきました。御協力に感謝致します。次の100号からは新たな装いで発行できるよう計画をすすめています。

中居正光(東札幌小) 元茂章子(美しが丘小) 今 裕子(真駒内緑小) 伊藤 尚(上野幌中) 毛馬内國夫(桑園小)